

2020(令和2)年度第2回熊本市男女共同参画センターはあもにい運営審議会(書面審議)議事録

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い2020年度第2回の運営審議会は書面審議での開催となりました。運営審議委員宛てに以下の議題について記した資料を2月1日付けで送付し、それに対するご意見を10名中10名の委員からいただきました。

- ◎議題(議事資料項目)
- 【会館運営報告】
 - 1、会館利用状況(利用者数、稼働率等)
 - 2、新型コロナウイルス感染対策の実施状況

- 【企画事業報告】
- 1、2020(令和2)年度の事業報告ほか
- 2、指定講座・自主事業の編成方針

その他

◎提出期限
2021(令和3)年3月1日(月)

◎書面審議参加者 参加予定者 10 名

◎書面回答数 10 名(井手志保、伊藤一敏、坂口京子、阪本恵子、中山敏子、那須円、伴 哲司、広渡純子、宮村飛伸、八幡彩子：敬称略)

以下に、委員からいただいたコメントおよびその対応を議事録としてまとめました。

令和2年度 第2回運営審議会 書面開催意見書から

【会館運営報告】

1、会館利用状況(利用者数、稼働率等)について

緊急事態宣言等で利用者の減少は仕方ないことだと思う。 今後、それに変わる企画を活発化して外部に発信していければ良いと思う。（井手委員）
1階エントランスの天井の照明がLEDに替わって、館内がとても明るくなったと感じられる。嬉しい限りだ。ただ、エレベーターホールから左右を見たとき、喫茶室のところで行き止まりになっていると勘違いされやすいので、駐車場側出入口の表示を初めての来館者にも分かるように案内表示を掲示してもらいたいと思う。（伊藤委員）
難しい経営状況の中、工夫をされていると感じた。コロナの影響での集客や広報も頑張られていると思った。 稼働率よりも、使い方や新しい価値・方法が重要だと感じている。（坂口委員）
コロナ感染拡大の影響で「緊急事態宣言」も出る中で休館期間もあり、利用者数・稼働率の低下は不可抗力の部分が多かったと思う。外出が制限される中でも利用者があることはやはり「はあもにい」の存在意義は大きいと思う。（阪本委員）
コロナ禍のもとで大変苦労されたのではないだろうか。 利用減については、いたしかたない部分もあるのではないかと思います。（那須委員）
令和2年度の来館者は前年度比33%だが、新型コロナウイルス感染拡大の中ではむしろ健闘していると言えるのではないか。室別稼働率を見ると、リハーサル室Cが対前年比プラスとなったほか、スタジオも他のルームに比べて小さい減少幅だ。これはオンライン会議やリモートのセミナーなどの利用があったからだろうか？ オンラインによるさまざまな催しはコロナ後も利用が増える可能性があるので、スタジオ機能の拡充は今後の検討課題だと思う。（伴委員）
→リハーサル室、スタジオは公民館、コミュニティセンター閉館の影響で開館している当館に流れてきたことと、個人もしくは同好会のような企業の縛りを受けない利用者であることなどが他の貸室に比べ稼働率が維持できた要因と考えられる。
コロナの影響が大きい中、対策等大変だったと思う。公民館の代わりに利用された部屋があったとのこと。利用者のアフターフォローや、公民館との連携で来館者増につながるのではと思った。（宮村委員）
コロナ禍という状況下で、会館の利用者数、稼働率等が減少することはやむを得ないことと思う。そのような中で、利用者が増加したりリハーサルCについて、なぜ増加したのか、分析されていて、丁寧な検討に感謝する。他の公民館等の閉館が長期化する中、当館が開館されていたことで貢献できたのだと拝察する。（八幡委員）

2、新型コロナウイルス感染対策の実施状況について

現在、利用させていただく事が多いが、対策徹底されていると思う。（井手委員）
感染対策に、かなり配慮されていると思う。 他の施設（コミュニティセンター等）に比べたら広い空間であることを活かした、積極的な運営方針の提案も要望する。（家族利用・職場での団体利用・多事業のオンライン撮影場所としての活用など）（坂口委員）
長い間の新型コロナウイルス感染症対策は大変だったことと思う。広い館内を日にち毎日のことでスタッフの方々は気が休まる事がなかったろうと推察する。部屋使用後の消毒、ドアノブや手すり等の消毒等徹底されてるようで、大変な分来館者は安心できたのではないか。（阪本委員）

感染予防のための物資（職員のマスク、消毒液など）、サーマルカメラ等は、十分に確保できたのだろうか？購入費など自治体からの支援や連けいは図れたのか、おききしたい。（那須委員） →物資関係について、飛沫防止シールド等は資材購入後手作り。使い切り手袋はトイレ用品購入業者を通じ早めに手配。職員マスクについては全国的にサージカルマスクが不足していたため、洗濯して繰り返し使えるマスクを購入し職員へ支給。また駐車場係等来館者に直接接する職員へはフェイスガードを支給。消毒液についてはエタノール系が全国的に在庫がなかったため確保できず、しばらくは次亜塩素酸水で代用。サーマルカメラは購入せず、はあもにいフェスタ開催時等必要に応じてレンタル対応。購入費は所轄課を通じ市予算で補填予定。
新型コロナウイルス感染対策は非常にきめ細かく、利用者が安心できる水準で実施されていると思う。令和３年度も当分は感染に気を付けなくてはいけない状況が続くと思うので、この対策を続けていただきたいと思う。 感染が収束した後も、利用者が安心して来館できる衛生環境は重要。利用者の負担感と衛生対策のバランスを考慮しつつ、どのような方法が適切か今から考えておくといいと思う。（伴委員）
必要な対策は取っておられると思う。来館者の中でマスクを忘れた方などへの対応は取っているか？（マスクの販売やプレゼント等）（宮村委員） →はあもにい主催事業については、忘れた方には配布する準備を行っている。ホール・貸室利用者については市のガイドラインに基づき、主催者にマスク常時着用を求めている。配布・販売も主催者側で行うよう求めている。はあもにい側での販売は目的外収入となるため行っていない。
消毒液の設置や利用者の体温チェック、三密防止、飛沫防止用シールドの設置等、会館の施設・設備に気を配っていただいた様子がよくわかった。ドアノブ等の消毒など、例年に比べて管理にお手間を要したことも多かったことと思う。万一、会館職員や利用者に感染が確認された場合、どのようにその情報を伝えていくことを想定されているのか、審議会開催の折にでもご説明いただく機会があるとうれしい。（八幡委員） →マニュアルを作成している。詳細は次回に紹介したい。

【企画事業報告】

1、2020(令和2)年度の事業報告ほかについて

学校での出張講座が増えていくと良いなあと思う。個人的に…。私が学生の時にこのような学びをたくさん受けたかった。（井手委員） →今年度は、コロナ禍で部外者が校内に入ることが難しい状況があった。毎年度、情報誌はあもにいやはあもにい通信、市政だより、チラシ、新聞、ミニコミ誌等で出前講座実施希望団体および学校（PTA含む）を募集している。少しずつ実績を積むことで、ニーズを掘り起こし、口コミや紹介等を通じて利用希望を増やしていきたいと考えている。
オンライン・ハイブリッドの良さを活かして、他県の施設・他国とのつながりが持てる事業への発展を期待している。講演や講座の記録を後日配信、もしくはHP等での配信があると見逃したり参加できなかった場合はとても嬉しい。（坂口委員） →アーカイブに関しては、著作権使用、個人情報保護等の観点から一般開放は難しい場合もある。許可が得られた場合は限定公開するなど検討した
オンラインも使いながら、多くの講座を開催できたことは大変良かったと思う。（阪本委員） 高校生・大学生を対象とした男女共同参画の啓発の重要性を以前から伝えていた。もちろん学校でも教育の時間があるとは思いますが、これまで自身が関わってきた経験から、教科書だけでない、実践的な話が学生の心に届くようだと感じる場面が多かった。はあもにいでは、そのような意見を尊重して、高校生・大学生向けの講座を継続しており、ありがたく思っている。早い段階から男女共同参画に触れ、学んでこそ、その意義が本当に分かり、考え方が身につくと考えている。今後も継続して取り組まれることを希望する。（中山委員）
オンラインを活用するなど、新たな試みにご苦労されたことと思う。講師の方々と参加者双方のご意見など具体的にききたいと思った。（那須委員） →講師からは「いろいろ工夫していただき、安心して講座ができた」他「時間配分が対面とはまた違い、難しかった」などの声があった。受講生からは「本当は会場へ行きたかったですが、用事もあり、介護もあり、コロナ禍の中なので、安心して参加できるWEB開催に感謝します」「ZOOMの講座に少し不安もありましたが、はあもにいの方から事前にテストして頂いて安心して受ける事が出来ました」などの声をいただいた。
コロナによる制約の中でも、対面とオンラインを活用し、例年に劣らない事業を展開していると感じた。特に、無料防災出前講座は「はあもにい」ならではの活動として積極的に発信しており、熊本豪雨水害で防災意識が高まる中、今後もニーズの増加が見込まれるのではないかと。男女共同参画についてもメンズカレッジやパパ向け講座など、男性目線で面白い企画も多く、今後も楽しみにしている。（伴委員） →男性向け講座のアンケートにも「もっと男性対象の講座をしてほしい」といった声が寄せられるようになってきた。さらなる充実を図りたい。
オンライン環境がない方も参加できるように、各事業を対面とオンラインの併用で開催されたのは、利用者にとってとても良かったと思う。一方で、コロナで会場に来れないという理由以外にも様々な理由から「オンラインだから参加できた」という方もいるのではないかと。来館しなくても事業に参加できるメリットは、コロナ後も、これからのツールとして活用できるのではないかと。（広渡委員） →コロナの理由以外に、介護や小さなお子さんがいるなどの理由でオンライン参加にメリットを感じていた受講生はいた。逆に環境がないなどの理由で「対面でないと参加できない」方もいる。ハイブリッド方式は、その両方をカバーすることが可能だが、準備と人員が通常の倍以上必要になるため、参加対象などを考慮しながらバランスを考えていきたい。
オンライン等をうまく活用しての開催おつかれ様でした！SNS等でもっと講座の発信をすると、普段ネットを使用している人の目に触れて、オンライン参加が見込めるのでは。ツイッター等利用している所もあるようだ。（宮村委員） →現在はあもにいのFacebookページと熊本市の公式LINEを利用。公的施設としてのSNSの発信は慎重さが求められるため、ツールに関しては検討し、活用していきたい。

①熊本市ならびに「はあもにい」では、以前から、「テレワーク」を推進されてきた。このたびのコロナ禍で、各所で「テレワーク」が推進されるにあたり、「テレワーク推進学習会」のニーズ（例えば参加者が多かったとか、実施回数を増やしたとか）やコワーキングスペースの利用状況等、テレワークに関する市民の反応の変化がもしあったら、次の審議会の折にでもご披露ください。 →テレワーク推進学習会に参加した企業はコロナ対策としてテレワーク導入を本格検討していた。共催した中小企業同友会内では、「必要性は感じているけれども余力がない」という声もあったと講師から聞いている。コロナの影響でテレワークのニーズは高まっていると感じるが、はあもにいでは、コロナ対策という目的以外に「社員のワーク・ライフ・バランス向上」というメリットも時間をかけて伝えており、講座後、その点の向上においても推進を図りたいと感想を述べた企業もあった。 ②（資料p.17）「熊本転入ママの会」について、「同団体は、母親の視点から父親の育児参加を考える企画案を数多く持っている」とあり、このような団体の掘り起こしは貴重だと思った。 ③（資料p.19）「無料の企画となると、参加キャンセルも気軽になってしまう傾向を感じた」とありますが、直前のキャンセルが多かったということか？ →オンラインコミュニケーションスキル講座に関しては、当館の講座が土日開講のパターンが多いため再就職などを考えている女性層を想定し平日昼間、全2回の講座で設定してみた。しかし、直前および当日に合わせて5名キャンセルがあり、第2回目も2名のキャンセルがあった。 ④（資料p.22）会館30周年の取組として制作されたパネルボードを次の審議会あるいは、常時会館でご披露いただけるとありがたい。まだ拝見する機会を持たず、申し訳ない。 →パネルボードは常時設置している。どうぞご来館ください。 ⑤（資料p.29）「クマモト・ウーマン」とあるが、今年度は男性の出演者が多かったようだ。メンズカレッジもあるので、（もちろん「クマモト・ウーマン」という名称のまま、男性の出演を歓迎する、というスタンスでもよいのかもしれないが）女性も男性も、というニュアンスの番組名にどこかのタイミングで変更を検討する時期がくるのかもしれない。 →コロナ禍で講演会等の開催がなく、講師などへの取材・インタビューの機会が大幅に減った。そのため、過去に好評だった東大教授（男性）のインタビューを再編集して放送した。そのため、結果的に男性の出演割合が上がった。一方、2020年10月に局側の番組改編があり、パーソナリティや番組の雰囲気も大きく変わった。そのため新年度は、ジェンダーをテーマに新しい番組企画を考え、タイトル変更も含め現在検討・準備中である。 ⑥今年度は、会館の利用者数等が減少し、いろいろなイベントの参加者も少なかったようだが、オンラインやハイブリッドなどの新しい取組を行ったことによって、「参加できた」「会場には足を運べないけれど参加したい、参加できるといった」という方がどれくらいいたのか。そのような方は、従来であれば、会館に足を運べなかったけれど、今年度新規に会館のイベント等に参加できた方、利用者拡大に向けて開拓できた方、と考えられる。数値化できれば何かの参考になるのではないか。（八幡委員） →募集当初から「オンライン講座」として募集をかけているものに関しては、「オンラインだから参加できた」のかどうかの聞き取りは特に行っていないが、数値化については、アンケート項目を見直すなど今後検討していきたい。

2、指定講座・自主事業の編成方針について

「若年層に向けた啓発」とあるが、出前講座と連携やオンラインカフェみたいに若年層と交流して、意見を聴いていったりするのも、また、新たな発想や視点を取り入れられるのでは？と思います。（井手委員） →高校3年生対象の防災出前講座では、終了後のアンケートでたくさんの意見や感想が寄せられ、意義の深さを痛感した。また、高校の卒業生に向けて制作・配布した「GEジャーナル」Vol.2の感想アンケートにも、しっかりした意見が返ってきた。大学生に向けた出前講座（キャリアスキルアップ）をきっかけに、はあもにい事業（託児やよんでのかい等）へ連携したいとの申し出があるなど、活動に対する反応と手ごたえを感じている。さまざまなツールや方法を通して若年層向けの啓発に、引き続き力を注いでいきたい。
指定講座も自主講座も内容が素晴らしいので、もっと広く配信できる工夫やオンライン（YouTube・Zoom・Clubhouse・SNS等）を活かして年代を越えて男女共同参画のディスカッションが活性化することを望む。（坂口委員）
社会参画支援事業や男女共同参画事業で得たスキルアップで、女性の起業家だったり、就業者が増えることを期待。（阪本委員）
コロナ禍のもとで特に女性の失業や自殺者が増えている状況のもと、感染防止に努めていただくと同時に、コロナ禍におかれた女性の方々の現状把握や必要な支援のあり方など、行政と連れいし、取り組みをすすめていただきたいと考える。（那須委員）
指定講座・自主講座のオンライン化は、利用者の幅を広げる上でも大切だと思う。一方で、新型コロナ感染の収束後は、コロナで疎遠になった「人と人とが直接触れ合う場」を創出することも必要。コロナ感染拡大は、私たちが今までの暮らし方や価値観を省みて、ものの考え方を改める機会になっている。今後も敏感にアンテナを張って、多くの市民が関心を持つテーマを取り上げることを期待。（伴委員）
GEジャーナルについて、「あなたがあなたらしく生きられる社会に」というメッセージタイトルをつけて今春高校を卒業する方に配布されるとのこと。「男女共同参画社会」という難しい言葉でなくて若年層に届く言葉で発信され、「はあもにい」が若年層にとってもっと身近な場所になっていくことを願いたい。（広渡委員）
メンズカレッジをウィメンズカレッジに組み込むのは良いと思う。是非女性側男性側相互理解となる内容を期待している。また、私事だが、土日参加が難しいため、平日開催のイベントもサービス業の人向けに増やして行ってほしいと思う。（宮村委員） →開講に関しては、講座の対象が参加しやすい日程を検討し、設定している。平日開催については講座内容、対象なども含め、検討していきたい。
資料p.33にある、「講座の提供形態の多様性の強化」という点に共感した。オンラインと対面、ウィメンズカレッジとメンズカレッジなど、新たな講座提供のあり方について新局面を開いていただくことを期待。上の1の⑤でも書いたが、女性を対象とする講座と男性を対象とする講座を分ける方が内容が特化されて参加しやすいという方と、女性と男性を分けない方が参加しやすいという方（比較的若い世代？）がいるように思う。できる範囲でかまわないので、ニーズ等を把握していただき、両方のニーズに応える講座のあり方についてご検討いただけるとありがたい。（例えば、私は大学で、「女性と職業」「女性のライフコースとキャリア」というテーマで授業を実施してきたが、女子学生の参加はもちろん多いが、女性の問題についても学びたい、という男子学生の受講もある。）来年度のメンズカレッジとウィメンズカレッジの合同開催が楽しみである。（八幡委員）

その他

少しずつでもコロナ禍が落ち着いて、いろんなイベント等が日常的に行われる事を祈念申し上げます。（井手委員）
・オンライン上での、はあもにいカレッジ（入学システム） ・社会参画支援の窓口を広げ、若年層や高齢者への企画の配信の仕組み ・FacebookやInstagramの活用 ・オフィシャルLINEの活用（活動報告や講座紹介・申込など） ・オンラインを活用したものができるとよりよいのではないかと思う。（坂口委員）
コロナ禍の中で尽力されている皆様に心より敬意を表す。 新年度はワクチン接種がはじまりますが、どのような活動ができるのか、まだまだわからない状況だ。体調に留意され、ますますがんばっていただくようお願い申し上げます。（那須委員）
令和2年度全体を振り返り、坂本館長はじめ管理運営に携わる職員の方々の努力のおかげで、コロナ禍の中でも「はあもにい」の目的である諸事業がしっかりと実施されていることをあらためて確認した。 人と人が触れ合い、成長しあえる場を一つでも多く創出して下さるようお願い申し上げます。（伴委員）
仕事が変わったため、火、水以外の参加は難しくなった。 コロナの影響で運営が大変と思うが、オンラインへの対応は充実していると思う。うまく活用して乗り切って欲しい。（宮村委員）
いくつかの事業を「ハイブリッド型」で実施されたことに注目した。資料によれば、講師の方が、Zoomで遠隔講演をされ、会館には参加者が足を運ばれたケース（+Zoom）と、講師の方が会館で講演をされながら、対面+オンラインで実施されたケースがあったように思う。どちらの方法がわかりやすい、とか、実施されての感想等があるか？また、準備等が大変だったのではないか。ノウハウをご教示いただけるとありがたい。（八幡委員） →ハイブリッド方式は、会場に来館する方のフォローとオンラインで参加する方のフォローがそれぞれ別に必要となる。また、講座内容が公平に伝わるようにカメラ配置・カメラワークの配慮など、準備と人員に通常の倍以上の労力を要することが課題。講師が遠隔講演する場合は、会場もオンラインも講師にとって「一視聴者」となるため、それほどの差異はないと思われるが、講師が会場来館する場合は、上記の課題が出てくる。ただし参加者との交流の必要がない「講演会」であれば、どちらの方法でも大きな違いはないと考えている。